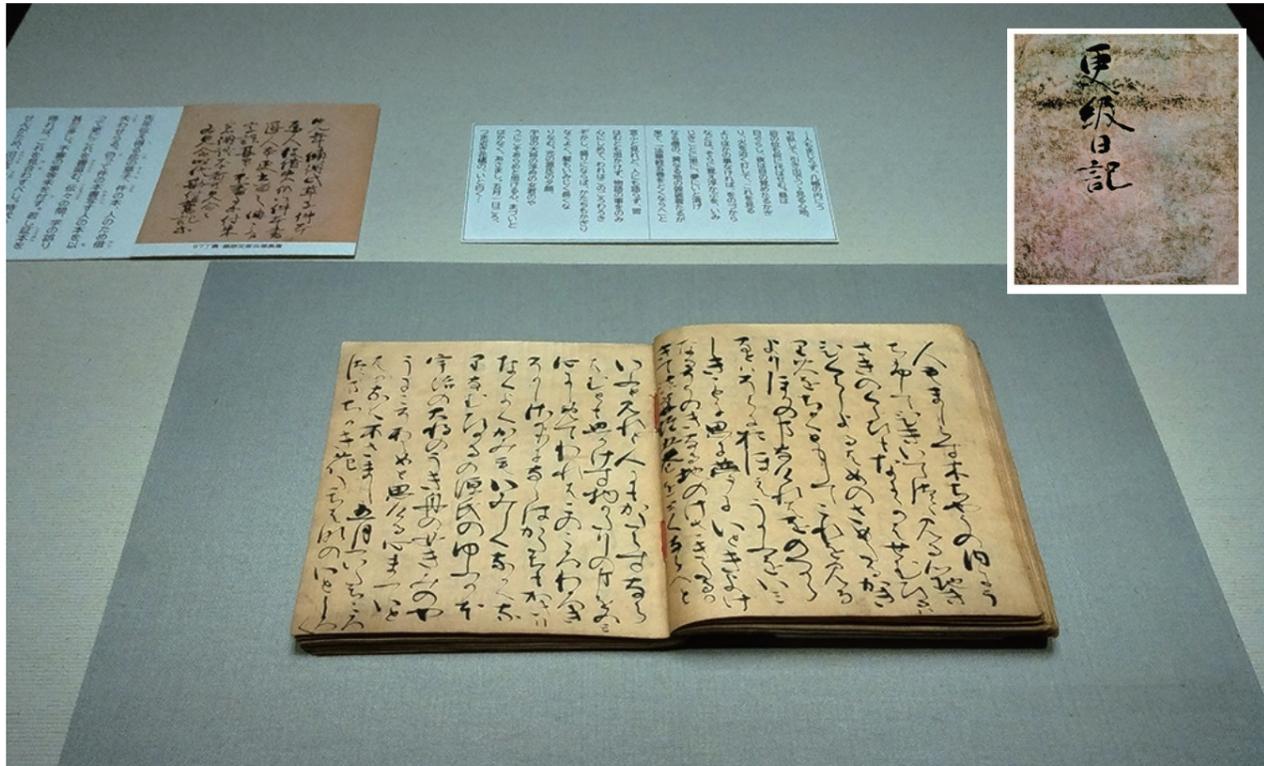


# 国宝「更級日記」

# 作者は紫式部と同じ宮中の物語作家

上		中		下	
名称及び員数	告知	名称及び員数	告知	名称及び員数	告知
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻一)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻二)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻三)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻四)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻五)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻六)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻七)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻八)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻九)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻十)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻十一)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻十二)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻十三)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻十四)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻十五)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻十六)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻十七)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻十八)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻十九)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻二十)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻二十一)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻二十二)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻二十三)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻二十四)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻二十五)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻二十六)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻二十七)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻二十八)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻二十九)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻三十)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻三十一)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻三十二)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻三十三)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻三十四)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻三十五)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻三十六)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻三十七)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻三十八)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻三十九)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻四十)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻四十一)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻四十二)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻四十三)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻四十四)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻四十五)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻四十六)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻四十七)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻四十八)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻四十九)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻五十)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻五十一)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻五十二)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻五十三)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻五十四)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻五十五)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻五十六)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻五十七)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻五十八)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻五十九)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻六十)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻六十一)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻六十二)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻六十三)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻六十四)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻六十五)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻六十六)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻六十七)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻六十八)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻六十九)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻七十)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻七十一)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻七十二)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻七十三)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻七十四)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻七十五)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻七十六)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻七十七)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻七十八)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻八十一)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻八十二)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻八十三)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻八十四)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻八十五)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻八十六)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻八十七)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻八十八)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻八十九)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻九十二)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻九十三)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻九十四)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻九十五)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻九十六)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻九十七)	昭和五十八年六月二十七日
紙本墨画淡彩「更級日記」(巻九十八)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻九十九)	昭和五十八年六月二十七日	紙本墨画淡彩「更級日記」(巻一百)	昭和五十八年六月二十七日



平安時代に書かれた「更級日記」が2023年6月27日、国宝に指定されました。正確には、鎌倉時代の歌人で小倉百人一首の考案者、藤原定家が書き写した和綴じ本が国宝になったのですが、更級という地名、言葉が「国の宝」になったと言ってもいいと思います。

1行も「さらしな里」のことが書いてないのに、なぜ当地の「更級」がタイトルになっているのか気になり「更級日記」を読み始めて25年。今、この作品は時代や社会と女性の生きざまという観点での読み解きが深まっています。その例が、2019年に放送されたNHKの「歴史秘話ヒストリア 物語に魅せられて 更級日記・平安少女」という番組です。

日記作者の菅原孝標の娘の心の中に入りこんで、なぜ自分史の先駆けといわれる日記を書いたのを明らかにしていく番組でしたが、女性の活躍や社会的立場の向上といった現代が抱える問題のまなざしを注ぎながら、菅原孝標の娘の生きざまを紹介していました。「更級日記」研究で評価される研究者にも女性が登場していることも関係していると思います。文芸作品は時代が変わると、読まれ方も時代の精神を反映したのになります。

そうした関心から、「源氏物語」作者紫式部と時の最高権力者藤原道長の2人を主人公にした2024年のNHK大河ドラマ「光る君へ」を興味深く見えています。道長の子の頼通は道長の後を継いだ後、菅原孝標の娘を物語作家として宮中に招いた可能性があり、紫式部と道長が編み出した物語による宮中統治の方法は、次の世代にも受け継がれ、菅原孝標の娘と頼通の関係となつて展開したと考えられるのです。その関係は番組では描かれませんが、道長の晩年を描く終盤になって、頼通が頻繁に登場するようになっていくし、さらに最終盤には「源氏物語」が大好きな少女として、菅原孝標の娘も登場するといふので楽しみです。

(頼通と菅原孝標の娘の関係について詳しくは更級153号) 「光る君へ」の放送が始まって間もなくの2024年3月26日には、皇居東御苑の美術館「皇居三の丸尚蔵館」で展示されていた国宝「更級日記」を見に行ってきました。藤原定家が書写した「更級日記」は天皇家の宝物として受け継がれてきたのですが(更級45号)、皇居三の丸尚蔵館の新築を記念して展示が決まり、実物を見学するバスツアーが開催されました。

私は表紙に書かれている題名の「更級日記」の文字を見たかったのですが、実物は一つしかないもので、それはかないません。実物を写真撮影して10%縮小印刷した影印本(笠間書陰)を持って行って、本表紙をケースの外で見ても良かったり、本を手にももらったりしました。藤原定家の書体は、流麗で柔らかく「イラスト、絵みたい」と感想を述べる人もいました。

